

研修コース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座B-6「生徒指導③」を実施しました！

「子どものメンタルヘルス～理解と支援～」

【講師】 伊賀市教育支援センター「ふれあい教室」カウンセラー
臨床心理士 公認心理師 藤村 幸子さん

10月16日(木)に「生徒指導③」の研修講座を実施しました。

演題に沿って、具体的な事例とペア学習を組み合わせながらご講演いただきました。藤村カウンセラーから、



- ・先生方の「あれ、いつもと違うな」という気づきや違和感が支援の入り口となり、状況が改善されたというケースが非常に多いと体感している。
- ・日頃の保護者や子どもたちと先生方の関係づくりが支援のベースになる。



というお言葉がありました。この視点を全職員で共有しておくことが大切だと感じました。その支援の入り口となるために、私たち指導者が子どもたちの様子で気をつけたい情報の一例を紹介します。

- 霧囲気・様子：表情が不自然 ・顔色がよくない ・声にハリがない ・視線が合わない等
- 授業中：居眠りが多い ・集中できていない ・立ち歩く ・課題に取り組まない等
- 行動：自傷行為 ・不穏な発言 ・外出が減る ・口数が減る ・こだわる ・散財 ・喧嘩等
- 体：腹痛 ・体が痛む 寝つけない等 ○心：意欲がない ・罪責感 ・自己嫌悪 ・寂しい等

また、しんどさを抱える子どもたちへの理解と支援のポイントとして、私たちが保護者へかける言葉も具体的に教えていただきました。例えば「周りをふり回す」という行為に対して、「不安や寂しさ、しんどさを理解してほしいという気持ちの表れかもしれませんよ」という言葉がけです。

研修に参加された先生方には、資料の取り扱いに留意していただきながら校内で還流していくとともに、今後の実践に活かしていただきたいと思います。

アンケートより【一部抜粋】

・子どもの様子で「おかしいな」と感じるところを丁寧に継続してみることを大切にしていくこうと思いました。保護者の気持ちを大切にしつつ、子どもの困り感を解消するために、専門機関とつなげていくことで長期的な支援につなげられることもわかりました。【小】

・事例をもとに話を聞いていただいたことで、どんな対応をしたら良いのか、考え直すことができた。日頃からの子どもたちや保護者と関わり方を学ぶためにも、心理的な知識をもっと学ぼうと思った。【小】

・教員は支援の入り口になる、子どもについての情報・学校での行動観察等が大事になってくる。そこからスクールカウンセラーにつなげていく大ささを学びました。先生の気づきから助かることやよくなることがあることや、話し合いで他校のことも知ることができ、学校で共有したいと思います。【中】

・学校生活の中で生徒の様子をできる限り見るように心がけています。その中で観る視点や気になるポイントを学ぶことができました。子どもたちの未来のために情報をうまく共有しながら、何が最善になるかをしっかり考えていただきたいと思います。【中】